

# かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ  
 所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢771-2  
 TEL:0556-22-8154 FAX:0556-22-8144

\*HPでも御覧になれます。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

## 人権講演会

身延町総合文会館で11月13日に開催された  
 峡南地域人権講演会の要旨(抜粋)を掲載します。



### 非行の発生原因と立ち直りに必要な支援 ～ 家庭・学校・地域の力 ～ 甲府少年鑑別所 首席専門官 外川 江美 氏



#### 1 少年保護手続きの流れ (数字はおよその目安です)

警察に逮捕された非行少年が100人いたとします。まず、留置所に拘留され、10日～20日程度の取り調べを受け、それが済むと家庭裁判所(以下、家裁)へ移り、100人のうち10人程度が少年鑑別所へ送られます。少年鑑別所では、少年が非行に走った原因を調べ、立ち直りの指針を考えて家裁に文書で通知します。家裁の審判では、10人中3人が少年院送致となり、残りは保護観察処分になります。つまり、非行少年は逮捕されても2ヶ

月以内に9割以上の者が家庭や地域に戻りますので、非行少年の立ち直りには地域・学校・家庭の力が重要といえます。

\*少年鑑別所と少年院の違い：少年鑑別所は、家裁の審判に備えて3～4週間収容される場所です。落ち着いた環境で「なぜ非行に走ったのか、これからどう生きていくか」を考えます。少年院は、家裁審判後に送致される場所で、集団生活を通して健全な考え方や行動様式を身に付け、就労・就学に必要な力を養います。

#### 2 非行の原因

##### 非行の準備段階

成長の初期の問題に位置付けられるのは、大事にされた経験の不足です。要は親子関係(愛着体験)がどうだったかということで、問題が大きい例に虐待が挙げられます。「大事にされた」経験が乏しいと、自分に存在価値を感じる事ができず、どうなっても構わないなどと投げやりな心境になりがちで、努力しても意味がないと考えてしまいます。

##### 最初の非行に至る段階

思春期になると、家庭や学校に自分の居場所がないとして、不良仲間と行動を共にようになります。自分などどうなってもいいと思っていますので、道を踏み外すことに歯止めが利きにくく、アウトロー(不良・非行文化)に引き付けられやすいです。不良交遊の中で、原動機付き自転車の無免許運転やコンビニでの万引きといった最初の非行に走ります。

##### 非行の深刻化

いったん非行に及んでしまうと、ますます自己評価が下がり、失うものは何もないとばかりに非行を反復し範囲を広げていきます。暴走族や暴力団に所属すると、価値観・行動の歪みが進み、犯罪が日常化します。

##### \*非行の原因を考えると

親子関係(愛着)の問題 × 本人の資質の負因(能力、性格、気質) × 周囲(学校、職場、地域、施設)から適切な支援がない、というように実際には原因は複雑に絡み合っています。

#### かけはし159号の誌面

- p1 峡南地域人権講演会
- p2 山梨ことぶき勸学院祭
- p3 連載特集『峡南地域の食材』  
(早川町・食生活改善推進員活動)
- p4 増穂小学校 地域から共に学ぶ会

### 3 非行からの立ち直り

#### 非行から立ち直った少年の特徴

少年院を出院した800余名を4年間追跡した調査報告があります。(法務総合研究所、2018)これによりますと、再非行に走らず立ち直った少年の特徴として、①家族関係が良好でコミュニケーションが保たれていること、②学校や職場など健全な居場所が確保されていること、③社会適応を支える具体的な支援や心理的な励ましがあること、④同じ目線で共感的に受け入れ関わってくれる人がいること、⑤困難があっても立ち向かっていけるという自信を獲得していることの5点が挙げられています。ちょうど彼らが非行化した原因を解消する内容になっていますね。

#### 健全な育ちに必要な家庭の役割

家庭の大切さは言うまでもありませんが、非行防止の観点から要点をまとめると次のようになります。親が突然いなくなったり暴力をふるわれたりしない、ありのままを受け入れてもらえる、学校や仕事に適応出来るよう実質的な支援がある、親自身が健全な生き方のモデルとなる、情緒面の支えになる、などです。

#### 非行化・再非行を防止する地域の力

地域に求められる役割は大きいと思います。子どもに拠り所となる居場所を提供すること(学校、職場、地域コミュニティ)、家庭の機能不全を補うこと(信頼できる温かい大人の関わりが欠かせません)、親をサポートすること(子育てに自信がない親や心理的・経済的に精一杯の親が少ない)、などです。

#### 立ち直りに必要な少年自身の力

少年院では成功体験を積み重ねて自信を持たせるよう働き掛けます。自信が付き自尊心が高まれば困難にぶつかっても投げやりにならず、より良く生きようという努力を続けることができ、非行の抑止力が高まります。

### 4 動機付け面接で立ち直りを支援

矯正施設(少年院や刑務所)の職員が実践している「励まし方」について、基本姿勢を紹介します。

【喚起性】だめなところを注意するのではなく、うまくできるところを取り上げてそこを強調します。

【協働性】職員は本人の成長のための専門家、されど主体はあくまで本人、互いを尊重して協働します。

【自律性】正しい意見を押し付けて従わせることは避け、本人が意思決定できるようにします。選択肢を挙げてそこから選んでもらうということでも構いません。

【以上が要旨です。参加者は82名で熱心に聞き入っていました。(当日の講演内容に加筆修正を行っています。)]

## 山梨ことぶき勸学院学園祭

第32回山梨ことぶき勸学院祭が10月23日に、「いつまでも学ぶ楽しさ 笑顔の輪」のテーマのもと開催されました。県内の6教室の発表が行われ、峡南教室2年生29名は、「おこさ節」「長生き



勸学院歌 指揮  
2年 入倉 武津子さん

サンバ」を舞踊&ダンスで発表しました。愉快的歌詞に合わせて、若々しく踊り、見事なステージとなりました。また、峡南教室1年生30名は、「ありがとう」と題した寸劇・語り・合唱が融合したステージを創造し好演しました。「峡南テレビの街頭インタビューの場面」で劇が始まり、アナウンサーが多くの老若男女が行き交う雑踏で、「最近あなたに起きたことは？」と尋ねます。そのシーンを切りに峡南教室の4名の生徒さんの実体験が語られます。波瀾万丈の人生に「大変な事も、絶望もあったけれど、出会えた人に、人生に有り難う。」と振り返り、会場を巻き込んだ原稿「ありがとうの歌」の大合唱で締めくくりました。感謝の気持ちで溢れる感動のステージとなりました。



峡南教室2年 発表



←主演 1年 石原 彩子さん

峡南教室1年 発表

# ☆連載特集☆『峡南地域の食材』No.24 早川町「子どもクラブ」と食改さん

【早川町 子どもクラブ】 早川町の子どもクラブは古民家で定期的に集まり、早川町上流文化圏研究所の研究者で指導員の中川裕幾さんの指導のもと活動しています。古民家の裏山には自由に探索して遊べる林がありツリーハウスがあります。近くにある柚の木からゆずを収穫してジュースをつついたり、穴を掘ったり、木材とロープで遊具を作ったり、自由に創意工夫をして、全身を使って遊びます。



中川裕幾 氏



## 【早川町の食改さんが子どもクラブで郷土料理実習】



望月眞知子 会長

早川町の食改さんは50年以上の歴史をもち、現在は、望月 眞知子 会長を含めて会員は22名です。その活動の一貫として、10月27日(土)に早川町内の子どもクラブの拠点である古民家で郷土料理実習を実施しました。食生活改善推進員5名が、薪で火をおこして、窯で炊飯したり、地元の野菜で「おすいとん」をつくる方法を子どもたちに伝授しました。

参加者は小中学生と保護者等計24名でした。子どもたちは、火をおこし、具材を切って煮て、その中にすいとんの生地をスプーンで落とし入れるなど、どの作業も手際よく、協力して取り組みました。最後に、残った火で「焼き芋」を焼いて、戸外での調理を存分に楽しみました。里山の自然に囲まれ、人々と関わる中で、子どもたちの「生きる力」が育まれていると実感しました。

## 【地元の野菜とカルシウムたっぷりすいとん】

### ■材料(4人分)

生地：小麦粉150g 片栗粉大さじ2 水150cc 塩 少々

具：油揚げ1枚 ごぼう100g 人参100g 椎茸40g

里芋中3個 長ネギ40g だし汁：水1L 煮干し20g

調味料：味噌大さじ4 醤油小さじ1 酒 大さじ1



■作り方 ①小麦粉にスキムミルク、塩、水を加えてスプーンでよく練る。

生地の硬さは耳たぶより少し柔らかめに練る。乾かないようラップでふたをして、20分以上寝かせる。

②分量の水を入れたナベに、頭と腹わたをとった煮干しを入れて、30分ほど置く。初めは中火で、煮立ってきたら弱火にし、あくをこまめにすくい取りながら、煮立たない

程度の火加減(煮干しがコトコト動く程度)で、5~6分煮出す。火を止めて煮干しを取り出す。

③油揚げはざるに入れて、熱湯をかけて油抜きをして、水けを切る。縦半分に切ってから5mm幅に切る。

④ゴボウはさがきにして5分水にさらす。人参、大根は皮をむき、いちよう切りにする。里芋は皮をむき、一口大に、しいたけは石づきをとり薄切りに、長ネギは斜め切りにする。

⑤ ②のだし汁に長ネギ以外の具を入れ煮る。野菜が柔らかくなったら、みそ、しょう油、酒で味を調える。

⑥生地をサジですくい、ナベに落とす。(1回ずつサジを水につけると生地がつかない。)

⑦中火で8分ほど煮込み、すいとんが浮いてきたら、最後に長ネギを入れる。





太鼓堂

## 富士川町特色ある学校教育推進事業

### 第32回 地域から共に学ぶ会

ー増穂小学校 総合的な学習の時間・生活科ー

ふるさと

故郷への想い、さらに強く



中込司校長の開会の挨拶

去る11月7日(水)午後1時30分から、増穂小学校において、「地域から共に学ぶ会」が開催されました。昭和59年11月18日、公開授業という形で「第1回地域から共に学ぶ会」が実施されました。地域をよく知っている方々を講師に招き、子ども、教師、保護者や地域の方々が共に学び合う実践が始まりました。以後、長きに渡り実践が引き継がれてきました。

「地域から共に学ぶ会」では、創設当初からの趣旨を大切にしています。それは、「1年生から6年生まで、それぞれの発達段階に応じて、地域素材を生かした学習に取り組むことにより、地域を再発見し、生涯を通じて地域を語ることで育つ人間に育てていこう。」という願いです。各学年のテーマのもと、1、2年生は、「生活科」の一単元の中で、3、4、5、6年生は、「総合的な学習の時間」の単元の中で、達成していくというスタイルをとっています。

当日は、保護者を含め500名を超える皆様の御参加をいただき、素敵な時間を共有しました。



#### 1年「こむぎをそだてよう」

親子でほうとう作りを体験し、小麦栽培への興味を広げよう！

地域の方から作り方、知恵や工夫を教えてもらいました。子ども達も保護者も作業の様子を食い入るように見ていました。最後は参加者みんなで収穫の喜びを感じながら美味しくいただきました。

#### 2年「ふれあい いっぱい 大きくせん」

親子と一緒に、名人さんの「技」を学びましょう！

押し花、絵手紙、手話、将棋、お手玉・あやとり、布ぞうり、おもちゃ作り、よさこいなど、それぞれに分かれて活動しました。各教室とも活気に溢れ、大勢の名人から多くの技を学びました。右の写真は、布ぞうり作りの様子です。家に持ち帰り、家の中でマイスリッパとして利用している友達もいるようです。



#### 3年「太鼓堂のひみつをさくろう！」(藤村式建築 旧春米(つきよね)学校)

太鼓堂について調べ、発表できること・・・それは、増穂小3年生だからこそその宝物です！初めての総合的な学習の時間を使って太鼓堂探検からスタートし、追究活動を行ってきました。増穂小のシンボルである「太鼓堂」。当日は、友達の発表を熱心に聞き、沢山の疑問や感想が出た中で、その秘密が解き明かされました。

#### 4年「発見！ふるさと増穂の秘密」

4グループに分かれ、追究してきた活動を発表しました。テーマは「天井川と人々の暮らし」、「水害」、「新利根川の開発」、「今の利根川」についてです。今と昔とを比べながら、発表しました。講師や参加者等からの話を熱心にメモを取りながら聞き、さらに理解を深めていました。地域開発のための先人の思いが、ひしひしと伝わってきました。



#### 5年「増穂の産業 これまで・今・これから」

増穂の伝統工業、先端工業について学び、工場見学・取材をし、追究活動を進めてきました。当日は、製品へのこだわりや熱い想いを生産者に代わって伝えていました。「萬屋醸造店」「青林堂靴店」「秋山縫製」「テクニカルスチール」の4つのグループに分かれての発表でした。聞き手も発表者の話をメモを取りながら真剣に聞き、自分の考えを整理し熱心に意見交換を行っていました。



#### 6年「富士川舟運をさぐる」

山梨の経済・交通・文化を支えた舟運の歴史を探り、ふるさとを新たな視点で見直しました。「舟運以前の道・舟運の歴史」、「角倉了以と船路・難所」、「積み荷と船・船頭の生活」、「甲州三河岸と岩淵河岸・渡船」の4グループがテーマ別の発表をしました。フィールドワーク、聞き取り、図書室やインターネットなどの活用が、深い学びと発表につながっていました。

